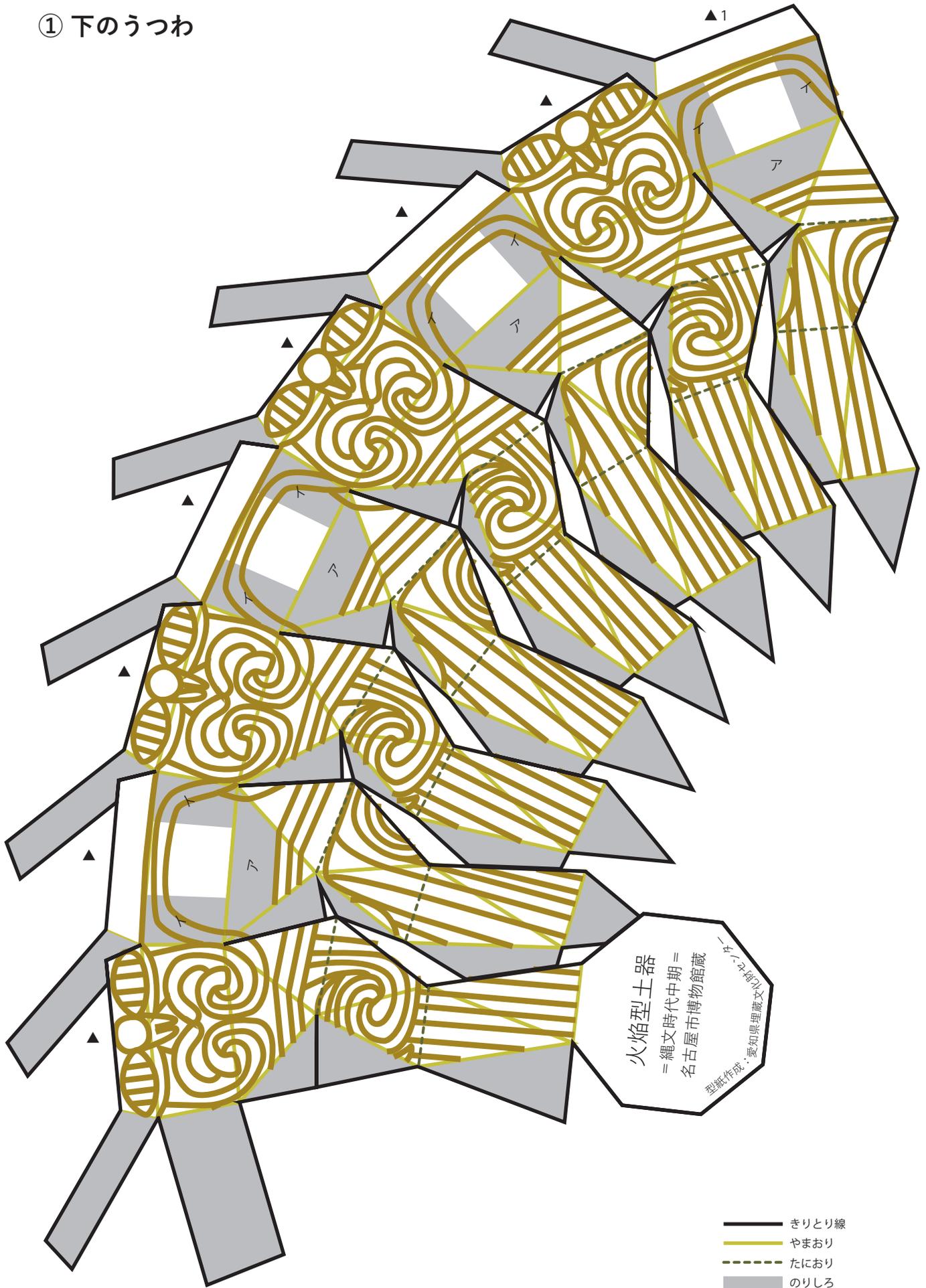


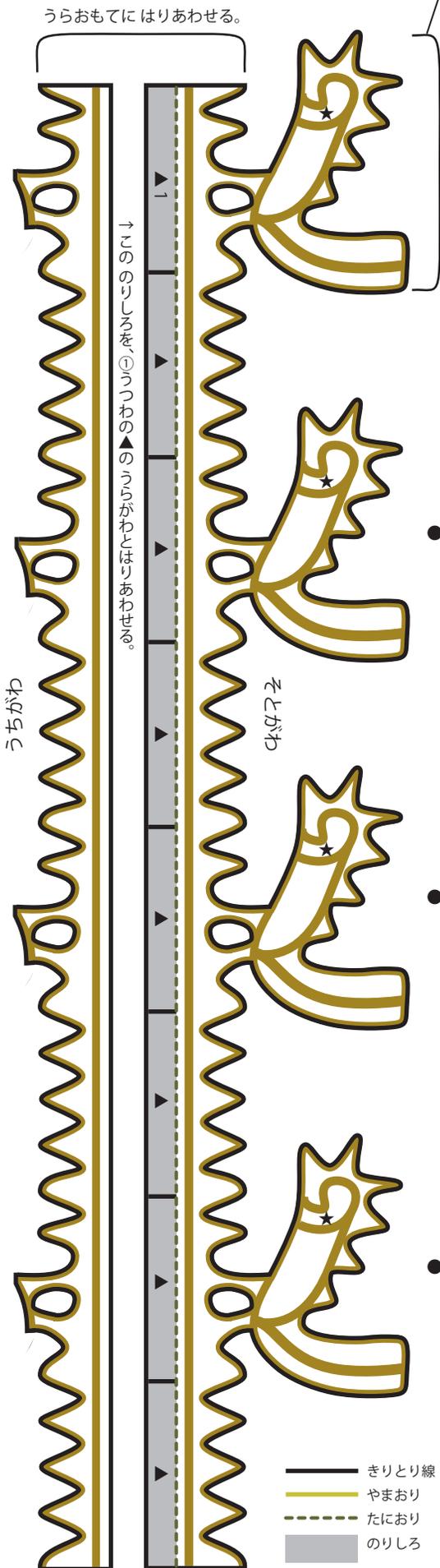
かえんがたどきペーパークラフト

① 下のうつわ



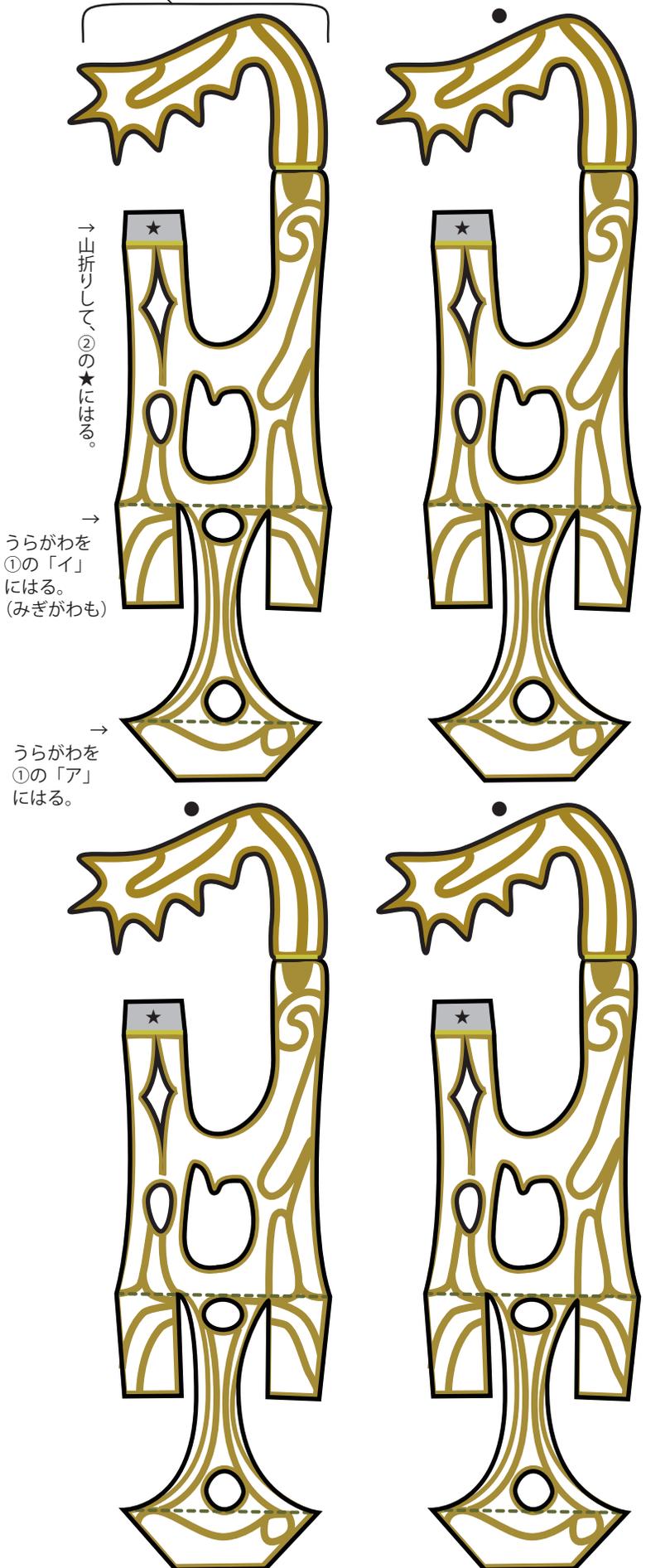
- きりとり線
- やまおり
- - - たにおり
- のりしろ

②ふちまわりのかざり



③の●部分、
②の●うらがわ
に、はりあわせる。
4ヶ所とも。

③でっばっているかざり





- (1) きりとり線にそって、はさみかカッターで切りぬく。切り込み部分を忘れないように。
- (2) ①ののりしろを、となりのパーツのうらがわにもようが合うようにはりあわせる。
- (3) ②のパーツを、うらおもてにはりあわせる。
- (4) ①のふち(▲)のうらがわに、②をはっていく。
- (5) ①と③の「ア」「イ」をはりあわせる(4カ所)。
- (6) ②の★に、③の★をはりつける。
- (7) ②の●のうらがわに、③の●の部分をはりあわせる(4ヶ所)。



器の縁の4か所にニワトリのトサカのような把手がつけられています。把手と把手のあいだはノコギリの刃のようにギザギザに仕上げられています。

こうした形が炎を思わせることから、「火焰型土器」と呼ばれています。

新潟県の信濃川流域にみられる特徴的な土器です。縄文時代中期の中頃（今から5,500年前～4,800年前）の土器です。



把手付深鉢 縄文時代中期 名古屋市博物館蔵

この土器は、特別展「感じる縄文時代」（2014年、名古屋市博物館）で展示されました。縄文時代について、もっと知りたい方はこちらをどうぞ。

《展覧会の詳細》 <http://www.museum.city.nagoya.jp/exhibition/special/past/tenji141213.html>

《展覧会図録》特別展「感じる縄文時代」600円 AB判 64頁 (2014)

<http://www.museum.city.nagoya.jp/activity/publish/index.html>